

ウガンダ月報(2019年2月)

主な出来事

【内政】

- ベトナム人による象牙等の密輸事件
- ウガンダ軍最高幹部会の開催
- MTNウガンダ社長の国外追放

【外政】

- 第20回東アフリカ共同体(EAC)首脳会議
- 国連のエンテベ地域支援センターの移転問題
- 第32回AU首脳会議でのムセベニ大統領の発言
- ムセベニ大統領とチセケディ・コンゴ(民)大統領との会談
- ムセベニ大統領と米国ユダヤ人団体との会談
- カガメルワンダ大統領のインタビュー
- ムセベニ大統領とゴイコビッチ・セルビア国会議長との会談
- コンゴ(民)の亡命反政府武装勢力元兵士の帰還

【経済】

- IMFによるウガンダの公的債務への指摘
- ルワンダによるセメントの輸入禁止の巷談
- タンザニアによる砂糖輸入禁止
- ウガンダの輸出額の増加

【日・ウガンダ関係】

- カンサイ・プラスコンの防蚊塗料完成発表

【内政】

- 1日, 約350万ドル相当の象牙及びセンザンコウの鱗を密輸したベトナム人2名が逮捕された。これら密輸品は木材に見せかけて3台のトラックで南スーダンからウガンダに輸送された。8日, ウガンダ野生動物庁は, 記者会見で, 逮捕されたベトナム人は違法行為により処罰される旨述べた。(12日付デイリー・モニター紙)
- 12日, ムセベニ大統領は, 大統領府でウガンダ軍(UPDF)幹部と国内の治安状況について議論し, 現状に満足していると述べた。また, 国内の統合はアフリカ大陸における戦略的安全性の保証になる旨を議論した。なお, ムセベニ大統領はUPDFの最高幹部会の議長を務めており, 同幹部会には国防相等が所属している。(14日付ニュー・ビジョン紙)
- 14日, 通信会社MTNウガンダのヴァンヘレプッテ社長は, 無期限で国外追放された。1月にMTNウガンダの幹部3名が盗聴等の疑い及び国内の治安を乱した等の理由で国外追放されたが, ヲンヘレプッテ社長はこれら国外追放された幹部に継続して業務にあたらせてい

た。ウガンダ当局はMTNウガンダに巨額の罰則金を課し、ウガンダでの仕事の仕方を改めさせようとしている。(16日付サタデー・モニター紙)

【外政】

- 2日、第20回東アフリカ共同体(EAC)首脳会議で、ムセベニ大統領は、「EACは世銀等のグループと民間セクターによる成長について議論してきた。しかし、我々が高いビジネスコストという問題を解決しなければ、民間セクターはやって来ない。EACはこれまで電気、輸送、労働コストといった費用の問題に取り組んできた。」と述べた。(3日付サンデー・ビジョン紙)
- 10日、エチオピアで開催された第32回AU首脳会合のフリンジで、ムセベニ大統領は、グテーレス国連事務総長と、地域の安全、人権、エンテベの国連地域支援センターの移設問題等について議論した。グテーレス事務総長は、「いかなる国連改革が実施されようとも、エンテベの国連地域支援センターは留まる。最終決定がなされる前の国連コンサルタントからの最新報告を待っている。」と述べた。ムセベニ大統領は、現在進行している紛争を回避するために、正しい考えに基づいて真のアフリカ軍を創設することが不可欠であると述べた。(11日付ニュー・ビジョン紙)
- 11日、ムセベニ大統領は、ケニヤッタ・ケニア大統領主催の朝食会に出席し、「アフリカの経済的及び政治的統合が重要である。アフリカの統合は繁栄、安全及び友好を意味する。アフリカの統一市場は、米国、中国、インド、ロシア及びEUといった大市場と交渉できる。」と述べた。(12日付ニュー・ビジョン紙)
- 11日、第32回AU首脳会議のフリンジで、ムセベニ大統領は、チセケディ・コンゴ(民)大統領と会談した。ムセベニ大統領は、チセケディ大統領の選挙での勝利を祝福し、「ウガンダはコンゴ(民)東部の民主同盟軍(ADF)のテロリストを懸念している。ADFを根絶してもらいたい。ウガンダはこれを支援する用意がある。」と述べた。チセケディ大統領は、ADFの脅威を解決するためにウガンダと協力することを約束するとともに、コンゴ(民)の経済的成功及び政治的安定を確立するための政府を樹立するための支援をムセベニ大統領に依頼した。両大統領は、コンゴ(民)東部で発生しているエボラ出血熱についても議論した。(13日付ニュー・ビジョン紙)
- 13日、ムセベニ大統領は、主要米国ユダヤ団体会長会議(Conference of Presidents of Major American Jewish Organizations)のホーンライン副会長と大統領府で会談した。ホーンライン副会長は、「ウガンダはイスラエルの味方であり、両国は共に成長できる。」と述べた。同日、200名以上のイスラエル人が、イスラエル航空のテルアビブからの臨時直行便で旧エンテベ空港に到着した。1976年7月、パレスチナ人がエールフランスをハイジャックした際、イスラエル当局は、誘拐された約80名のイスラエル人を旧エンテベ空港で救助した。ネタニヤフ・イスラエル首相の弟は、この救助作戦部隊の一員として亡くなった。(14日付ニュー・ビジョン紙)
- カガメ・ルワンダ大統領は、紙面のインタビューにおいて、「(ウガンダ・ルワンダ関係の悪化

について)我々には非常に良好な関係を構築すべき良い基礎がある。両国関係については過去2年間議論してきたが、我々はこれを解決できる。」と答え、また、「ウガンダがルワンダの反政府グループを優遇しているという問題があるが、これは、南アフリカ在住のルワンダ人がルワンダ政府に対する陰謀を企て、ウガンダに情報を与えて支援を得ようとしたものである。」と述べた。(16日付イースト・アフリカン紙)

- 22日、ムセベニ大統領は、大統領府でゴイコビッチ・セルビア国会議長と会談し、「両国関係の活性化のための用意がある。プッチ・セルビア大統領にウガンダを訪問してもらいたい。」と述べた。ゴイコビッチ議長は、ウガンダのカダガ国会議長と両国国会の協力に関する覚書に署名した。カダガ議長は、「ウガンダは、セルビアを通じてEU市場に展開すべき」とのゴイコビッチ議長の発言を歓迎した。(26日付ニュー・ビジョン紙)
- 26日、ウガンダ政府は、ウガンダに亡命したコンゴ(民)の反政府武装勢力(M23)の元兵士57名を、国連の飛行機に乗せてコンゴ(民)へ送還した。本措置は、チセケディ・コンゴ(民)大統領が1月、国外亡命している国民全てに帰国するよう呼びかけたことを踏まえたもの。なお、ウガンダ及びルワンダは、2013年にM23を支援したとして、国連の報告書で批判されている。(27日付デイリー・モニター紙)

【経済】

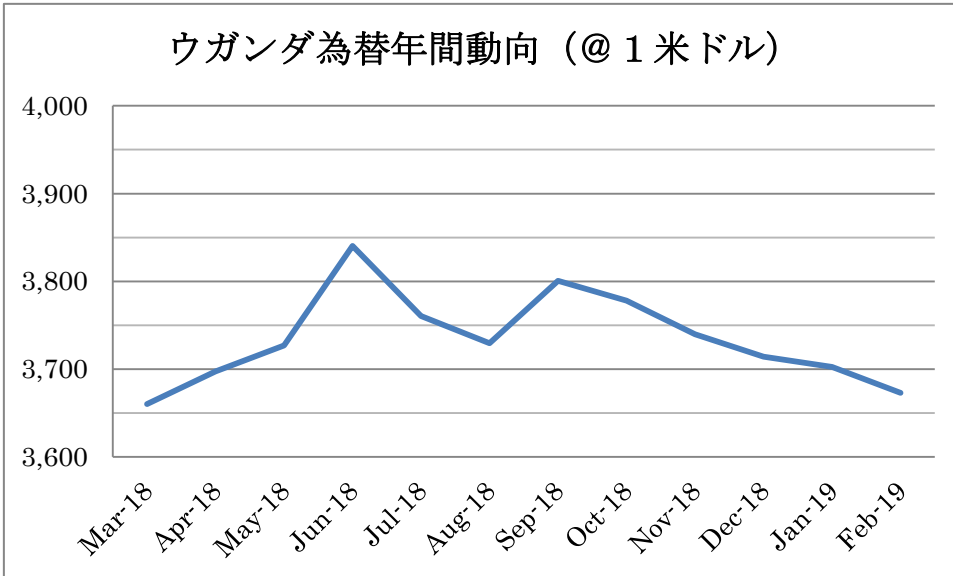
- 12日、IMFは、ウガンダの公債の対GDP比が2021/22年度に49.5%に達すると述べた。IMFによれば、過去5年間で公的支出の増加により債務償還の予算が増大し、国内外の債務は107億米ドルに達し、これは対GDP比で41.5%である。IMFは、ウガンダ政府は債務の上限を設定しなければならないと主張した。(13日付デイリー・モニター紙)
- 17日、在ルワンダのウガンダ大使館は、ルワンダ政府がウガンダからのセメント等の輸入を禁止しているという噂を否定し、メディア等による報道は真実ではないと明らかにした。税関関係者は、貿易は通常どおり行われていると述べた。(18日付デイリー・モニター紙)
- タンザニアは、今年1月にウガンダからの砂糖の輸入禁止措置を解除したが、再度、輸入許可書の発給を停止する措置を執った。タンザニア農業省は、国内需要を満たすために砂糖生産を増大させる措置を執る旨の声明を発表した。タンザニア農業省によれば、国内の砂糖在庫は5月分まであり、6月からは需要を満たすために輸入許可書を発出する意向である。(21日付デイリー・モニター紙)
- 2018年、ウガンダの輸出上位を占めたのは金、コーヒー、魚、石油(再輸出品)及びトウモロコシで、輸出額は前年比で5.1%増加した。ウガンダ中央銀行によると、輸出額は、2017年の34億米ドルから、2018年には36億ドルに増加した。2018年最大の輸出品は金で、5.14億米ドルである。これは、2014年、エンテベに設立された製錬所AGRによって金の輸出が増加したことによるものである。ウガンダの最大の農業輸出品であるコーヒーの輸出は、国際価格の下落により、2018年に量及び金額とも減少し、金額ベースではその前年の5.55億ドルから4.36億ドルに減少した。(26日付デイリー・モニター紙)

【日・ウガンダ関係】

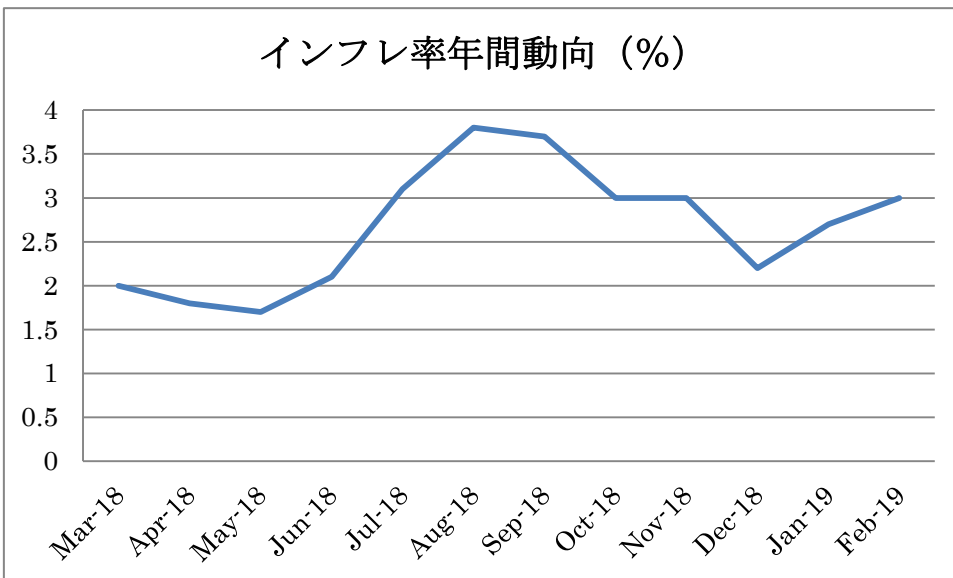
- 5日、カンサイ・プラスコン・ウガンダが防蚊塗料完成発表会を開催したところ、同発表会に出席したムセベニ大統領は、「カンサイ・プラスコンの尽力で、防蚊ペイントが開発されたことを歓迎する。本日の発表会の前に、カンパラ郊外の同社ナマンベ工場を視察したが、ここでは約450名が雇用されていると聞いており、これもウガンダ経済への大きな貢献である。」と述べた。（7日付ニュー・ビジョン紙及びデイリー・モニター紙）

(別紙)2019年2月主要経済指標(ウガンダ中央銀行)

・ウガンダ・シリング為替相場@1米ドル:3672.9シリング(前月3,702.4シリング)



・インフレ率(前期比年率):3.0%(前月2.7%)



・政策金利: 10. 0%(前月: 10. 0%)

